

指定校番号	29019	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	藤田 光洋
-----	-----------	----	---------	--------	-------

**取組事例名** 『児童が主体的にかかわる生徒指導の取組』

**取組のねらい** 『キーワード：共感的人間関係づくり』

児童会活動において、児童会行事や委員会活動を児童が主体的にかかわる中で、積極的な生徒指導の取組を組み込んでいく。その取組を通して、共感的な人間関係づくりを目指していく。

**身に付させたい資質・能力**

集団としては、自治能力を養う。

個人としては、自己指導力の向上を目指す。特に自主・自立の力を中心として、創造性や判断力・表現力を養うと共に、社会性やコミュニケーション能力・協調性を養う。

**取組の具体的内容** 『キーワード：子供の意見や主体的な行動を尊重して』

○ 1年生を迎える会と 6年生によるお世話

- ・児童会が計画・運営する「1年生を迎える会」
- ・年間を通して、1年生にかかわる6年生



○ 児童が主体となる運動会と振り返りの紹介

- ・児童が目標を立て、盛り上げる「運動会」
- ・他学年のよさを見つけ、学び合う「振り返り」



○ 「あったか言葉」「友だちよいとこノート」月間と「栗原しぐさポスト」の実施

- ・栗原しぐさの具体的な行動としての一日一善
- ・他学年・他学級のよい行動を紹介する「栗原しぐさポスト」



○ 児童会執行部と栗原中学校生徒会との交流

- ・お互いの活動紹介
- ・中学生からのアドバイス



○児童会まつりと学年間交流遊び <長縄大会>



<手つなぎ鬼>

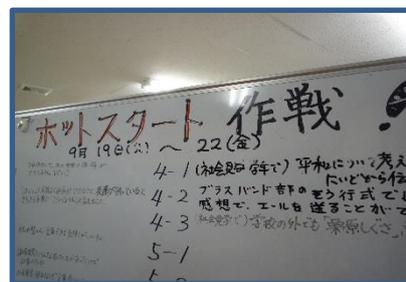


**取組の課題・創意工夫『キーワード：先生の率先垂範』**

今年度の校内研修の中で、積極的な生徒指導を展開していくには、指導者自らの姿勢や態度・行動が極めて重要であることを互いに確認し、児童に対する「育みの行動」が何よりも大切であることを学んだ。特別支援教育の視点から、個の課題に適応した指導や対応を大事にしながら、自己存在感や自己肯定感を高める声かけや行動を教職員が率先して行う次のような作戦を展開してきた。

○朝1番の「ホット・スタート作戦」

- ・1日のスタートは、先生の温かい言葉がけから出発しようという作戦で、職員室のホワイトボードに紹介し、全体共有した。



○帰りの会で「ホット・エンド作戦」

- ・帰りの会で、児童同士のよいところ見つけだけではなく、先生から5人以上の児童を温かい言葉がけで賞賛しようという作戦を1月に提起した。

○構成的グループエンカウターの研修と実施

- ・共感的人間関係づくりとして、夏季には構成的グループエンカウターの研修を行い、9月より計画的に実施してきた。(月初めの学級会に組み込む。)

**取組の成果（効果）『キーワード：学級満足度アップ!』**

児童実態をとらえるために、今年度は6月と1月にQ-U調査を実施した。その中で、学級満足度を比較してみると、次のような結果となった。

- 「承認得点」の向上した学級 . . . . . 14学級 / 18学級 (78%)
- 「被侵害得点」の減少した学級 . . . . . 16学級 / 18学級 (89%)
- 「学級満足度」の向上した児童の割合 . . . . . 全校児童の **79.2%**

**今後の展開『キーワード：6年生ありがとう!』**

今年度も2ヶ月足らずの中で、まとめの時期として、縦割り班活動を中心として、6年生に対する感謝とお礼の気持ちを込めた活動を仕組んでいく。

最終的には、「6年生を送る会」において、全校児童が互いの良さに気づき、思い出に残る児童会行事となるように工夫し盛り上げていく。

**他校へのアドバイス『キーワード：やっぱり栗原しぐさ!』**

本校には、10年前から期待する児童像として「栗原しぐさ」の実践がある。

「時を守り 場を清め 礼を正す」という人間像を追求し、常に相手意識を持って行動することが栗っ子の目指す目標としました。このことは、あらゆる場と空間で子供たちが自らの姿や行動の指針が明確になり、落ち着いた学校生活が送られ、自分が所属する学級への満足度も向上してくると考える。